

振動の基礎知識

- 振動の表現
- 1自由度系の自由振動
 - 無減衰の系
 - 減衰のある系
- 1自由度系の強制振動
- モード解析

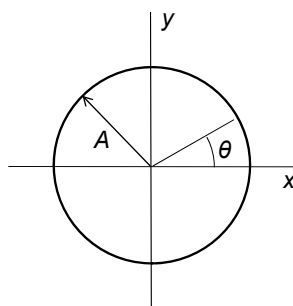
振動の表現

単振動の表現

半径 A の等速円運動は、位相角 $\theta = \omega t + \varphi$ (角速度 ω の運動、 φ は位相遅れ)とすると、

$$\begin{aligned} x \text{座標: } & x(t) = A \cos(\omega t + \varphi) \\ y \text{座標: } & y(t) = A \sin(\omega t + \varphi) \end{aligned}$$

で表されます。



振動の表現

等速円運動の写像

等速円運動

$$x(t) = A \cos(\omega t + \varphi), y(t) = A \sin(\omega t + \varphi)$$

を複素数で表すと、

$$z(t) = A e^{i(\omega t + \varphi)} \quad i \text{は虚数単位 } (i^2 = -1)$$

と書けます。(∵ $e^{i\theta} = \cos \theta + i \sin \theta$:オイラーの公式)

1自由度系の自由振動

無減衰の系

この系の運動方程式は、

$$m \ddot{x} + kx = 0$$

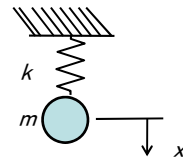
となります。ここで $x(t) = C e^{\lambda t}$ とおくと、

$$\dot{x} = C \lambda e^{\lambda t}$$

$$\ddot{x} = C \lambda^2 e^{\lambda t}$$

になるので、運動方程式に代入すると、

$$m \ddot{x} + kx = m C \lambda^2 e^{\lambda t} + k C e^{\lambda t} = C (m \lambda^2 + k) e^{\lambda t} = 0$$



1自由度系の自由振動

無減衰の系(つづき)

となり、一般に $C, e^{\lambda t}$ は0ではないので、これより、

$$m \lambda^2 + k = 0 \quad \leftarrow \text{特性方程式という}$$

これを解くと、

$$\lambda = \pm i \sqrt{\frac{k}{m}}$$

ゆえに一般解は、 \bar{C} を C の共役複素数とすると

$$x(t) = C e^{i \sqrt{\frac{k}{m}} t} + \bar{C} e^{-i \sqrt{\frac{k}{m}} t}$$

1自由度系の自由振動

無減衰の系(つづき)

オイラーの公式をつかうと、

$$\begin{aligned} x(t) &= C \cos \sqrt{\frac{k}{m}} t + iC \sin \sqrt{\frac{k}{m}} t + \bar{C} \cos \sqrt{\frac{k}{m}} t - i\bar{C} \sin \sqrt{\frac{k}{m}} t \\ &= (C + \bar{C}) \cos \sqrt{\frac{k}{m}} t + i(C - \bar{C}) \sin \sqrt{\frac{k}{m}} t = A \cos \omega_n t + B \sin \omega_n t \end{aligned}$$

$$A = C + \bar{C}$$

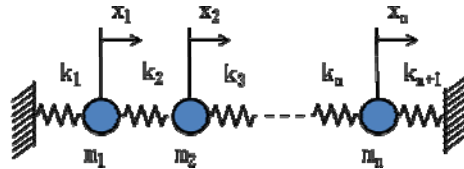
$$B = i(C - \bar{C})$$

$$\omega_n = \sqrt{\frac{k}{m}} \quad \leftarrow \text{固有円振動数}$$

モード解析

多自由度系の自由振動

無重力中における図のような
 n 自由度の系を考えます。
 この運動方程式は、



$$\begin{aligned}
 m_1 \ddot{x}_1 + (k_1 + k_2)x_1 - k_2 x_2 &= 0 \\
 m_2 \ddot{x}_2 - k_2 x_1 + (k_2 + k_3)x_2 - k_3 x_3 &= 0 \\
 &\vdots \\
 m_{n-1} \ddot{x}_{n-1} - k_{n-1} x_{n-2} + (k_{n-1} + k_n)x_{n-1} - k_n x_n &= 0 \\
 m_n \ddot{x}_n - k_n x_{n-1} + (k_n + k_{n+1})x_n &= 0
 \end{aligned}$$

モード解析

多自由度系の自由振動(つづき)

ここで、

$$[M] = \begin{bmatrix} m_1 & 0 & \cdots & 0 \\ 0 & m_2 & \cdots & 0 \\ \cdots & \cdots & \cdots & \cdots \\ 0 & 0 & \cdots & m_n \end{bmatrix}$$

$$[K] = \begin{bmatrix} k_1 + k_2 & -k_2 & 0 & \cdots & 0 & 0 \\ -k_2 & k_2 + k_3 & -k_3 & \cdots & 0 & 0 \\ \cdots & \cdots & \cdots & \cdots & \cdots & \cdots \\ 0 & 0 & 0 & \cdots & k_{n-1} + k_n & -k_n \\ 0 & 0 & 0 & \cdots & -k_n & k_n + k_{n+1} \end{bmatrix}$$

モード解析

多自由度系の自由振動(つづき)

および

$$\{x\} = \begin{Bmatrix} x_1 \\ x_2 \\ \vdots \\ x_n \end{Bmatrix}$$

とおくと、 n 個の運動方程式は

$$[M]\{\ddot{x}\} + [K]\{x\} = \{0\}$$

一般的にどのような系でもこのように書き下せます。

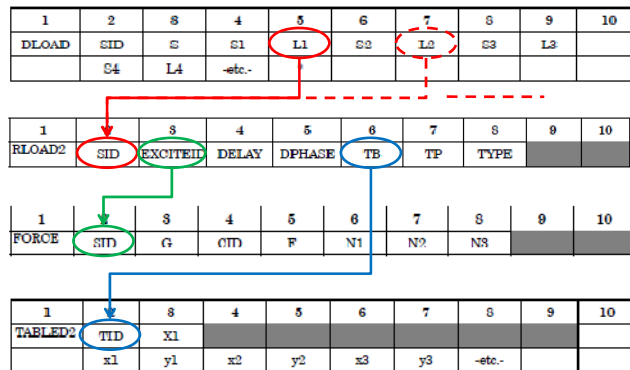
NX Nastran動解析の定義

動解析に必要な定義

- ◆固有値解析
 - 固有値解析手法の指定
 - 計算周波数範囲の指定
- ◆周波数応答解析
 - 固有値計算周波数範囲の指定(モード法のみ)
 - 動的荷重の設定
 - 周波数応答計算範囲の指定
- ◆過渡応答解析
 - 固有値計算周波数範囲の指定(モード法のみ)
 - 動的荷重の設定
 - 計算時間範囲、時間刻みの指定

動的荷重の定義について

動的な荷重定義のパターン(おさらい)



解析結果について

NX Nastranのアウトプット

NX Nastranの解析実行をすると、****.log、****.f04、****.f06などのファイルが出力されます。

解析結果などが出力されるf06ファイルについて、動解析結果出力の見方を紹介します。

- f06ファイルに出力される情報は、
- (1) 計算条件などの確認 (ECHO)
 - (2) モデル情報 (通常はサマリのみのみ出力する)
 - (3) モデル全体の質量などの計算結果
 - (4) 剛性の特異点リスト (SINGULARITY)
 - (5) 固有値一覧
 - (7) 有効質量比
 - (5) エラーメッセージ
- などになります。